

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森 2Fこもれびユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319-15		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	平成21年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kounyou-c.tukushi-shimane.or.jp/kaigoin/informationPublic.do?JCD=3291800013&amp;SC">http://kounyou-c.tukushi-shimane.or.jp/kaigoin/informationPublic.do?JCD=3291800013&amp;SC</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年11月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑の山々に囲まれた江川のほとりで、のんびりとふくろうタイムを楽しんでいます。そんな中で認知症の方と時を共にしながら、認知症の理解とより良いケア、尊厳のある生活について皆で考え取り組んでいます。型にはまらないそれぞれの生活を、家庭的な馴染みの環境の中で送り”今”を、楽しく生きることを大切にしています。より質の高いケアを目指し、担当による継続ケア、研修リーダーによる各種研修会、ユニットリーダーによるチーム作りと、職員一人ひとりも輝ける職場作りをしています。地域の中の一員として、地域の行事や災害訓練への参加、散歩や立ち話を通し、地域のみなさんとしたいに身近な関係になってきているのを感じています。地域の方がふくろうの避難訓練やイベントにも、気軽に出かけられるようになりました。利用者の安全を守るために医療、家族、地域、行政との連携を大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付いたサービスを目指し、日々のカンファレンスなどで理念に触れそれに基づいたケアの実施について話し合っている。理念をホールやトイレ内に掲示し日常的に意識付けるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、地域の行事に参加したり散歩に出かけた先での立ち話を楽しんだり、利用者の地元へ買い物や散髪に出かけたりしている。また、事業所の行事に誘い交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症ケアの啓発に熱意をもって取り組んでいる。ヘルパー2級の養成、中学生のボランティアや職場体験、障害者の実習のほか、講演、講師などにも関わることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画にそってサービスの実際や評価への取り組みなどを報告して意見をもらっている。利用者と共に過ごしてもらう時間を作り、そこからの感想などを聞く機会も作っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や健康福祉課、包括支援センターに気軽に出入りできる関係ができていく。機会ごとに、現状や経過の報告、サービスへの取り組み、活動状況について報告、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修修了者を中心に、研修会を行い身体拘束について理解を深め、利用者側からみた介護について考えている。言葉、態度によるロックについても話し合う機会を日常的に持っている。		
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修修了者を中心に、研修会を行い虐待について理解を深め、利用者側からみた介護について考えている。小さな気づきも報告し話し合う機会を日常的に持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員に必要な知識として、資料をもとに学習する機会を持っている。必要と思われる場合はこちらから情報を提供したり、包括支援センターに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する書類の説明は、わかりやすく説明し要望や心配なことなどを聞き確認しながら話している。契約後もいつでも気軽に聞いてもらえるよう声掛けし、必要時には確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まずは、何でも言える関係作り、雰囲気作りに努めている。家族の来訪時には、気付きや意見など伺うようにしている。生活の中で利用者の声は大切にケアに結びつけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を気軽に言える環境作りに努めている。朝のミーティングや会議など必要に応じて意見の交換などをし反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々への声掛けやねぎらいの言葉がけ、話し合いなどを行いながら、人の質を高めケアの質を高めるための職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、内部での研修会や報告会などで学びを共有している。日常的に機会をとらえたOJTも行っている。ヘルパー、介護福祉士の資格習得を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所時から思いは持っているが、きちんとした形はできていない。研修や連絡会などの活動を通し他事業所との交流や情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と面接して、不安や困っていることを直接聞く機会をもっている。言葉での表現は難しくても、表情、しぐさなどから心情を組み取るように努め、安心につながる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と面接し困っていることや状況を伺い話し合うことにより、安心につながる関係づくりに努めている。不安なことなど、いつでも相談に応じることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いま何のサービスが必要かを考え、適切なサービスの提案や紹介をしている。それにより他の事業所やサービス、ケアマネを紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてたくさんの生活の知恵を教えて頂きながら、お互いの生活を支えあえるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にし情報交換をしながら、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。週1回の来訪や仕事帰りの来訪も喜んで迎え、家族の存在が身近に感じられるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお店やイベント、ドライブに出かけたりしている。馴染みの人の来訪はみんなで歓迎し他の利用者も一緒に楽しく過ごす様子もある。遠方の家族からの電話もよくあり、気軽に掛けれると言ってもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し生活を楽しめるよう、役割や外出時など配慮している。孤立感を感じないよう話しかけたり輪の中に誘ったりしている。利用者同士の声掛けや誘いもよく見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族からその後の様子を知らせて下さったりし、必要に応じ相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや希望を伺っている。ベッドを好まれない方へは畳を準備したり部屋で過ごされる方へはお茶を運んだりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや本人、家族より話を聞いて情報を得て、生活の継続やケアに生かしている。訪問をして生活の様子や家族関係などの様子を伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録にそれぞれの項目を設け一目で分かるようにし、変わったことがあればラインを入れ詳しく別記するようにしている。申し送りを活用し全スタッフに伝達するように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当医などの思いや意見を介護計画に反映させている。毎月モニタリングの時間を取り話し合い、現状に即して介護計画になるように見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット利用者の1日の様子がわかるように項目ごとに記録できる一覧表にしている。記録はいつでも見られ情報収集をしてから勤務についている。最終的には個別に項目ごとに縦読みできるように処理している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により、イベントへの参加、ドライブ、外食、病院受診など、必要な支援や楽しみの提供に対応している。地域の医療機関と24時間医療連携が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察、消防署や病院また、ボランティアや近隣との連携を深め、一緒に生活の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期以外の受診などは特に家族への報告、連絡、相談を密にしている。医師からの説明にも、家族の了解を得て同席させてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、細かい気づきなどもいつでも報告、相談できるようにしているため、スムーズにきめ細やかな対応ができている。24時間対応で医師、看護師に連絡できる体制をとり活用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療が効果的に受けられるよう情報提供書をしている。入院中の経過は担当医やソーシャルワーカー、家族と情報交換をしたり話し合いを持ち早期退院へと支援している。対応がスムーズにできるよう普段からの関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適切な時期に、本人、家族、かかりつけ医と話し合いながら終末に向けての方針を決めている。医療行為の量や事業所で出来ることなどについて何度も話し合い、最期までその人らしく人の温もりの中で暮らせるようチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急蘇生法の研修を毎年実施し全職員が参加している。他に応急手当普及員による研修も実施している。事故事例への具体的な対策を話し合い共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで火災時の避難訓練、通報訓練を実施している。地域の方の参加もあり運営推進会議でも取り上げ連携を深めている。地域の災害避難訓練にも参加し、自治会用非常時備蓄米の協力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮し尊重した言葉かけや態度で対応している。必要時、職員個別の指導も行いながら尊重とプライバシーの確保について常に考えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりを通し、希望や関心、好みなどを知り、楽しい生活できるように支援している個々の利用者に合った選択方法を提供している。思いを表出しやすい関係作り、言葉や態度に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やペース、思いに合わせた生活を支援している。部屋でゆっくりしたい、家が気になるので見に行きたい、外に花を摘みに行きたいなど、本人の思いに沿った生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には鏡付き洗面台を置き、身だしなみを整えておられる。お化粧品やスカーフをおしゃれに楽しまれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが出来ることに、ご自分からまたは声掛けにより参加されている。食事は職員と一緒に話しながら楽しんでいる。行事食や季節の物、地元の野菜をおいしく頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が把握しやすいように記録の工夫をしている。個別に活動量や体重、病気等に配慮した食事について取り組みを強化していきたいと考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎予防、口腔ケアの必要性を理解した上で支援している。個別に声掛けや立たれた時のタイミングなどに実施している。また、必要な方には確認の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握しトイレでの自立にむけた支援を行っている。おむつの使用を減らすことについての意識を持つように取り組んでいきたい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう、食事内容、水分摂取の工夫や運動、腹部マッサージなどを行っているが、まだ十分ではない。必要に応じて医師に相談しているが生活の見直しも必要と考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、時間を決めず好きな時間帯にゆっくり入浴してもらっている。入浴をあまり好まない方にはその気になられる声かけなどを工夫している。気の合う方と誘いあって入浴される方もおられる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーやこたつで横になったりして自由に過ごしてもらっている。消灯時間は決めず、テレビを見たり話をしたり眠くなるまでホールでゆっくり過ごされている。入眠までの関わりが必要な方には個別に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をいつでも見れるようにしている。服薬一覧表によりチェックし誤薬を防いでいる。症状の変化を医師に報告し調整してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割や楽しみがあり、生活の張りや生きがいを感じられる生活支援に努めている。利用者の声を大切にし、希望があればできるだけ応じるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるためにも毎日戸外に出かける支援をしている。楽しみのある生活になるように、希望や思いを聞いたり地元の催しへ参加したり、外出の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理、お出かけの時に財布を持って出るなど個別の方法を準備している。買い物へ行く楽しみや自分の物を買うという喜びを味わって頂けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたいという思いを大切に、いつでも使ってもらっている。季節のお便りなどを勧めて一緒に書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの模様変えを季節ごとにしたり、利用者の生活に合わせ安全に過ごせるようにしている。穏やかな環境作りに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自由に過ごせるような環境を提供している。ホール、畳、こたつ、個室、廊下の椅子など。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して落ち着いて過ごして頂けるよう馴染みの家具や装飾品などがある部屋作りをしている。が、何も無い部屋を好まれる方や、衣類を広げてあるほうが落ち着かれる方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて机や椅子、畳、家具などの場所を変えたり、安全な環境を心がけている。		